

The Lung

神戸大学大学院医学研究科
呼吸器内科学

第2巻 第2号

発行:650-0017神戸市中央区楠町7-5-1
神戸大学大学院医学研究科呼吸器内科
TEL:(078)382-5846 FAX:(078)382-5859
<http://www.med.kobe-u.ac.jp/resp/index.html>

ごあいさつ

残暑もようやく和らいできましたが、先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

酷暑とロンドンオリンピック観戦による寝不足で、例年になく夏ばて気味の先生もおられたのではないのでしょうか。ロンドンオリンピック、その後開催されたパラリンピックでは、多くの感動を受けました。競技の内容や勝敗だけではなく、競技に至る前の計り知れない隠れた努力や競技後の選手のコメントにより緩い涙腺がさらに緩くなりました。また、勝負に照準を合わせたチームジャパンとして入念な戦略が練られていたことも一部の競技で明らかにされ、さらに感銘を受けま



准教授 西村 善博

した。到底真似のできないことですが、成功へのヒントをもらったように思います。

さて、今年度冬の日本呼吸器学会近畿地方会を私共が担当させていただくことになり、演題募集を始めました。初期研修医・学部学生が発表する一般演題に対して優秀演題を選出し表彰する企画を本学会では初めて設けました。多くの先生方の演題発表、ご出席をお待ちしております。何卒よろしく御願いたします。

目次:

ごあいさつ	1
BF-Naviiについて	1
ASCOで発表して	2
ATS2012報告	2

日本呼吸器学会近畿地方会を開催します。

第80回日本呼吸器学会・第110回日本結核病学会近畿地方会

日時:平成24年12月15日(土)午前9時~午後5時(予定)
場所:神戸国際会議場
ホームページ:<http://plaza.umin.ac.jp/~kinki/jrskinki80.html>

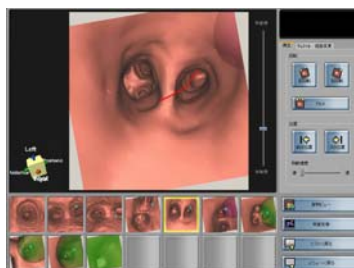
ヴァーチャル気管支鏡ナビゲーションシステムを導入しました。

助教 立原 素子

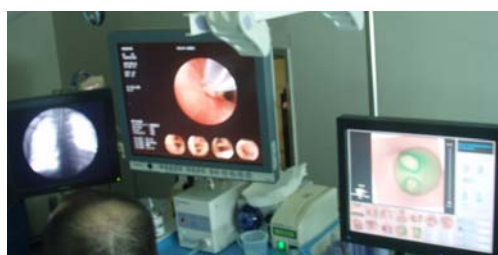
今やカーナビがついていない新車はないでしょう。目的とする場所に誘導してくれるナビゲーションシステム、目的地にたどり着くのに大変便利です。当科では肺末梢小型病変に対する気管支鏡検査にナビゲーションシステムを導入しました。3cm以下の肺末梢小型病変の診断は難しく、HRCTで病変の関与気管支を一生懸命読影しても、病変にたどりつけない場合があります。

ヴァーチャル気管支鏡ナビゲーションシステム(Bf-NAVI, オリンパスメディカル)は、検査前にHRCTを再構築して仮想気管支鏡を作成し、病変までのルートを作成します。後は気管支鏡検査時にナビゲーションの画像に従ってカメラを挿入するだけです。検査時に、気管支鏡での視野と、仮想気管支鏡の画像の方向(前後と回転軸)をリアルタイムに同調させることができるのがこのシステムのポイントです。これにより診断率の向上と検査時間の短縮が期待でき、患者さんに優しいシステムです。また、当科では

ガイドシース併用気管支鏡内超音波断層法(EBUS-GS)も併用していますので、高い診断率が期待できます。通常の気管支鏡検査で診断が困難な病変など、是非ご紹介ください。



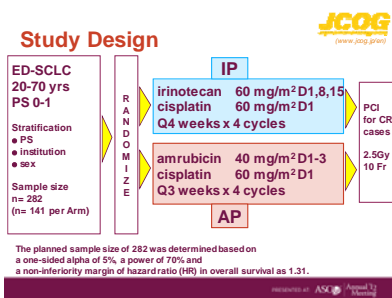
Bf-NAVI画面



検査中の様子

ASCOで発表して

2012 American Society of Clinical Oncology (ASCO)が6月1日から米国シカゴで行われました。悪性腫瘍関連の学会では世界最大規模で数万人が参加します。私はJapan Clinical Oncology Group (JCOG)という悪性腫瘍に対する新規治療開発を多施設共同臨床試験で行うグループに所属しており、進展型小細胞肺癌に対するアムルピシン+シスプラチン (AP)対イリノテカン+シスプラチン(IP)の多施設共同ランダム化比較第III相試験(JCOG0509)の研究事務局をしております。2004年にコンセプト承認されてから足掛け8年にわたって関わっていた愛着ある試験ですが、昨年12月の中間解析の結果で新規治療であるAP療法が標準治療であるIP療法に劣っているという残念なものでした。その結果を今年のASCOに発表することになりました。



講師 小谷 義一

Negative studyなのでOralでの発表はないだろうと高をくっておりましたが、何とOral presentationに採択されてしまいました。私は英語が苦手で、どうやって大学に入ったのか未だによく分からない人間です。しかし皆様のご協力で準備が整いました。実際の発表では数千人の聴衆を前に半端ない緊張が私を襲いましたが、途中から落ち着きました。英語の質問にも日本人特有の苦笑いで答えることができました。



このような経験はしたくてもできないものです。若い先生方にもぜひ経験してほしいものです。何より兵庫県立がんセンター根来俊一先生を始め周りの先生方のご指導の賜物と思っています。

ATS2012報告



American Thoracic Society (ATS)は2012年5月18日から23日までサンフランシスコで開催されました。私たちにとっては初めて発表者として参加する国際学会になります。

はじめは海外に行ける喜びが先行していましたが、日程が近づくにつれて、徐々に緊張感が増し、頭の中はでいつもプレゼンテーションと質問に対する返答について考えていました。ポスターを英語で作るのも一苦勞で、西村先生や小林先生にご指導を頂き、出発2日前にやっと完成しました。観光について考える余裕もなく、とりあえず「地球の歩き方」をスーツケースに入れ、到着した日に初めて本と開いたような状態でした。

初日は寝ずの到着となり、そのままぶらりと街を散策したせいか相当な疲労感に襲われ、すぐに眠ってしまいました。翌日、学会場に行きましたが、学会は想像を超える規模で開催されており、会場は活気に満ち溢れていました。

畠山由記久・樫木暢子

ポスターセッション、口頭発表のセッションなど一回り参加し最新のトピックスに触れつつ学会終了後には足を伸ばしてサンフランシスコの観光も行きました。すべてがコンパクトにまとまったセンスある街並みに感銘を受けました。

本番のプレゼンとはとにかく緊張しましたが、2人ともなんとかコミュニケーションを取りながら無事に終了することができました。カナダの留学先から参加されていた山本正嗣先生に同席いただきました。プレゼン時はもとより、発表内容のDiscussionも含め多くの助言をいただき、大変心強く感じました。

このような発表に至るまでに多くの方々にご協力いただき、無事発表を終えることができたことに安堵感を感じつつ、海外学会への出席により今後の研究へのモチベーション向上につながり大変有意義だったと思います。

The Lung

神戸大学大学院医学研究科呼吸器内科学

電話 078(382)5846

FAX 078(382)5859

Email: <http://www.med.kobe-u.ac.jp/resp/index.html>

肺がんから「せき」「息切れ」まで
何でもご相談下さい！



日本呼吸器学会近畿地方会を開催します。

西村准教授からも報告がありましたが、本年12月15日に神戸国際会議場で、日本呼吸器学会・日本結核病学会の近畿地方会を開催いたします。

教育講演やランチョンセミナーでは、「思春期喘息」や「ALK陽性肺癌」など、Topics的な内容の講演を用意しております。また、「循環器疾患に合併する睡眠呼吸障害」や「COPDと循環器疾患」といった循環器疾患に関連した講演も予定しており、呼吸器専門

の先生だけでなく、循環器領域を専門にされておられる先生方にも、ぜひ参加いただき、会を盛り上げていただければと思います。

日本呼吸器学会では初めて、初期研修医・学生を対象とした優秀演題の表彰もあります。

多くの先生方からの演題発表、学会へのご参加を心よりお待ちしております。